

2 指導計画の改善

□ 各教科等の年間指導計画は、学習の基盤となる資質・能力等の育成に向けた教科等横断的な視点をもつとともに、学校段階等間の円滑な接続が図られるよう編成されていますか。

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を育成することが求められています。そのため、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の改善を図るとともに、学校段階等間の円滑な接続に向けた取組を行い、児童に必要な資質・能力を育むことを目指す教育を行うことが大切です。

I 教科等横断的な学習の推進

学習の基盤となる資質・能力を育むことができるよう、各教科等の指導と関連付けながら、教科等横断的な視点で年間指導計画等を改善することが大切です。

【教科等横断的な視点で育む情報活用能力（例）】

情報活用能力の要素の例示（一部抜粋）	
A 知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 （コンピュータの起動、キーボードによる文字の入力等） 2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 （調査や資料等による基本的な情報の収集、整理等） 3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解 （自分の情報や他人の情報の大切さ、ルールやマナー等）
B 思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力 （収集した情報から課題を見付け、解決に向けた活動を実現するために情報の活用の見通しを立て、実行する等）
C 学びに向かう力、人間性等	1 問題解決・探究における情報活用の態度 （情報を複数の視点から捉えようとする等） 2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度 （情報の発信のルール・マナーを踏まえた行動等）

各教科等と関連付けた情報活用能力の年間指導計画（例）			
教科等	月 4	5	6
総合的な学習の時間	大好き みどり川 出発！ みどり川探検隊 ○川と繰り返し関わり、川への思いを深める。 ○調査活動を通して考えたことを地域に伝える。等		
国語	本と出会う	段落のつながりに気を付けて	伝えたいことをはっきりさせて書こう
社会	住みよいくらしをつくる	地図の見方	水はどこから
算数	大きな数	円と球	わり算
理科	あたたかくなる	電気のはたらき	暑くなると

地域住民の情報の大切さ（A3）
キーボードによる文字の入力（A1）
視点を決めて表やグラフを用いて情報を整理（B1）
調査や資料による情報の収集（A2）
情報を複数の視点から捉える（C1）
情報の発信のルール・マナーを踏まえた行動（C2）

【参考資料】

・学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成（文部科学省）



II 学校段階等間の円滑な接続に向けた取組

各学校においては、小学校及び中学校9年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていくことが大切です。

また、小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようにすることが重要です。

【中高連携の視点を踏まえた年間指導計画の改善（例）】

中学校数学科における言語能力の育成（例）		
学年	D データの活用	改善のポイント
第2学年	○データの分布の比較 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味 ・箱ひげ図で表すこと	四分位範囲や箱ひげ図を学習することで、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、批判的に考察して判断する。
第3学年	○標本調査 ・標本調査の必要性と意味 ・標本を取り出し整理すること	

【高等学校における指導の在り方（一部抜粋）】

○日常生活等の具体的な問題に対して、複数の種類のデータを収集し、適切な手法を用いて分析を行い、データの散らばり具合を考察し、事象の特徴を表現する力を身に付ける。

【幼児期の教育と小学校教育との接続】

幼小接続のポイント	【参考】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き
【幼児教育施設】 ○小学校での学習や生活を踏まえた「幼児教育の工夫」 ・言葉を豊かにする遊びや園生活の工夫（多様な体験で触れる様々な物、行動、感情を言葉にする） ・自然への興味や関わる意欲につながる遊びや園生活の工夫 等	
【小学校】 ○幼児教育での遊びや生活を踏まえた「小学校教育の工夫」 ・一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築く工夫 ・児童の発達の特性を踏まえた時間割や学習活動の工夫 ・生活科を中心とした総合的・関連的な指導の充実 等	

スタートカリキュラムの改善に反映

【参考資料】

・公立高等学校入学者選抜状況報告書（北海道教育庁学校教育局学力向上推進課）



□ 各教科等の指導計画は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたものとなっていますか。

各教科等の指導計画は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげるとともに、教科等横断的な視点から、学習の基盤となる資質・能力を育成することが大切です。

III 個別最適な学び・協働的な学びと授業改善

ICTを積極的に活用し、児童が自ら見通しを立てたり、学びを振り返ったりしながら、多様な他者と協働して学習を進めることが大切です。

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る指導計画(例)】

単元名「私たちにできるSDGsを提案しよう」
参考【令和3年度全国学力・学習状況調査「授業アイデア例」小学校国語】

単元で取り上げる指導事項

第5・6学年A話すこと・聞くこと
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

指導計画の概要

主な学習活動	指導上の留意点
1 「私たちにできるSDGsの取組について提案する」という目的を持ち、自分の課題を設定する。(1時間)	教師が学習のゴールを明確に示すとともに、 児童がこれまでの学習の経験や状況を踏まえ、自分の課題を設定することができるよう 、学習履歴(スタディ・ログ)等を活用する。
2 提案する際に必要な情報を集め、提案内容を検討し、話の構成を考える。(4時間)	児童が自分の学習を調整しながら学ぶことができるよう 、学習者用デジタル教科書、学習動画等のコンテンツ等、多様な教材を準備する。
3 発表に向けて表現を工夫するために、自らが立てた課題について、助言し合う。(2時間)	児童が学び合いを通して、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出していくことができるよう 、児童一人一人の学習状況を見取り、課題を焦点化する。
4 「私たちにできるSDGsの取組」について提案し、学習を振り返る。(1時間)	児童が学び直しや発展的な学習など、主体的に学習することができるよう 、学習活動の振り返りの場面において、蓄積した音声・画像・データ等を活用する。

【参考資料】
・1人1台端末の活用による情報活用能力の育成：校内研修シリーズNo104(NITS動画)

IV 学習の基盤となる資質・能力の育成のための活動の充実

各学校においては、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要です。

【学校で育成する資質・能力を踏まえた指導計画(例)】

育成する資質・能力として情報活用能力の育成に重点を置いた学校の例
各教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点から情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりする力等を育てていくことができるよう、教育課程の編成を図る。

単元名「地域の安全を守ろう」
参考【今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校)】

各教科等の特質を生かして育成する情報活用能力

- ① 目的に応じた情報メディアを選択し、調査等を組み合わせた情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理する。
- ② 目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせることで、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現する。
- ③ 情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える。

指導計画の概要

主な学習活動	指導上の留意点
1 自然災害や防災の取組について知ろう(10時間) ○ いろいろな自然災害や防災の取組や工夫について調べる。 ○ 既存の防災の取組の課題を整理し、まとめる。	① 生徒が調査等組み合わせながら情報収集し、表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理することができるよう 、自分たちの地域に起こり得る災害を調べ、地域住民の防災に対する意識調査(アンケート)を実施し、地域の課題を見付け、数学科の学習を生かし、分析する場面を位置付ける。
2 地域の防災の課題を解決しよう(20時間) ○ 自分たちの地域に起こり得る災害や、地域の防災の取組について調べる。 ○ 地域の人の防災に対する意識調査から課題を見付ける。 ○ 意識調査の結果から解決すべき課題を見付け、プロジェクトを立ち上げ、専門家のアドバイスを受けながら取り組む。 ○ プロジェクトの取組を他学年や地域の人々に伝える。	② 生徒が複数の表現手段を組み合わせ、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現することができるよう 、チラシのデザイン(美術科)、防災マップの作成(社会科)、Webサイトの作成、防災アプリの開発(技術・家庭科)等、各教科等の学びを関連付ける場面を位置付ける。
3 課題解決の取組を評価しよう(5時間) ○ アンケートによる評価・改善をする。 ○ 防災と自分たちの生活との関わりや、プロジェクトの取組について振り返り、新たな課題を見付ける。	③ 生徒が情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考えることができるよう 、作成した成果物の評価について、再度アンケート調査を行い、その結果を数学科の学習を生かし、情報を整理・比較する場面を位置付ける。